

平成24年度学校自己評価表(2)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の 重点目標 1 学校改革の推進 2 基礎的な学力の向上と能力・個性の伸長 3 進路実現のための進路指導体制の確立 4 基本的な生活習慣の確立と地域貢献活動の推進 5 国際交流活動および国際理解教育の推進
---------------------------	--	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月			
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	中間評価	最終評価に対するコメント	最終評価	
4 基本的な生活習慣の確立と地域貢献活動の推進	基本的な生活習慣の確立	○遅刻回数が減少してきたが、まだ基本的な生活習慣に課題のある生徒もいる。	○「遅刻0の日」「遅刻防止月間」などの取り組みを通じたメリハリのある指導	○遅刻回数を前年比半減させる。	○遅刻回数掲示板を活用しながら、朝読書の取り組みとも連動させ啓発する。	B	1月末現在で遅刻回数は前年度比の15%減であった。2学期から「遅刻防止強化週間」の取り組みを行い、生徒の遅刻に対する意識も少しずつではあるが高まってきた。目標には届かなかったが、遅刻回数の減少傾向は着実に進んでいる。しかし、11月以降の遅刻回数が増加する傾向があり対策を考えていく必要がある。	B
		○指導が浸透してきて、服装が乱れている生徒や規範意識の希薄な生徒の数が減少してきている。	○適切な挨拶、言葉遣いなど規範意識の定着と、落ち着いた学びの場の形成	○服装規程を徹底する。	○服装強化週間などに取り組み指導を徹底する。 ○生徒との面談・保護者懇談等も利用し、粘り強く指導していく。	B	服装強化週間を2回実施、服装点検は毎月実施した。取り組みにより、生徒に服装規程が浸透してきて、服装違反をする生徒が減ってきた。	B
		○正しい言葉遣いや挨拶がしっかりとできない生徒も中にはいる。	○教員間での指導目標の共有と、指導する姿勢の強化	○学校全体として指導を統一し、毅然とした態度で粘り強く指導する。	○こまめに指導に対する確認を行い、全職員が一致した組織的な指導を行う。	B	学校内で挨拶をし合う姿が多く見られる様になってきている。教員の意思統一も図られ、教員の方から声かけをすることが効果的であることが実証された。	B
		○保護者や生徒会との連携が確実に取れつつある。	○保護者・生徒会との連携	○教職員・保護者・生徒会で、朝の声かけ運動を行う。年間100回以上実施する。	○保護者のふれあい運動や生徒会の声かけ運動ともタイアップして行う。	A	「ふれあい運動」「マナーアップ運動」など地域の方々とタイアップして活動を行った。また、生徒会と協力し毎朝の声かけ運動を行った。	A
		○学校生活に困り感を持つ生徒もいる。	○個別具体的な課題に対応できるような支援体制の充実	○教育相談部が関係者と連絡を取りながら様々な課題を抱える生徒へ対応する。	○個別の支援チームを実施させ、全職員で情報を共有できる体制作りを工夫する。	B	各担任及び各学年団と連携を取り、教育相談部とスクールカウンセラーが協力しながら生徒や保護者に対応・助言し、課題を抱えた生徒への問題解決に取り組んできた。会議での報告や連絡フォルダの利用など情報共有も充分行えた。	B
	地域貢献活動の推進	○学校行事に積極的に取り組む姿勢が改善傾向にある。	○生徒会活動や部活動を通じて、規範意識や自ら判断する力など生きる力の育成と、地域に貢献できる人材の育成	○生徒会主催行事後のアンケートで満足度80%以上を目指す。	○朝の挨拶運動を継続する。 ○執行部と担当教員との話し合いの時間を十分確保する。 ○週1回以上執行部会を開き、リーダーとしての自覚を高める。	B	生徒会執行部員と担当教員が連携をとりながら、あいさつ運動などを通じ、明るい学校づくりに取り組んだ。また、生徒会執行部を中心に、学校行事の意識を理解し、積極的に活動することが出来た。学校祭のアンケートでは満足度が80%を上回った。	B
		○昨年度の部活加入率は80%を超えた。	○部活動を通して、生徒が切磋琢磨する環境の整備と、活気ある学校づくりの推進	○今年度も年間を通して部活加入率80%以上を維持する。	○進路指導部・担任と生徒会部が連携して、進路指導のロングホームルームなどを利用して、キャリア教育の観点から部活動加入を促す。	B	本年度4月の加入率は88%であった。進路指導部が部活動の重要性を示すことで、積極的に参加することが進路実現に繋がることを生徒が認識してきた。	B
		○PTAと生徒会が一体となって通学路等の清掃奉仕活動を行い、地域貢献の意識も高まってきた。	○PTA活動と生徒会活動をタイアップさせた地域美化の推進	○生徒の地元への愛着が深まるような活動を組織し、参加人数を増やす。	○コスモスロードの整備のほか、TEASや部活動における地域貢献活動を推進し、本校に対する理解浸透を図る。	B	6月にPTAと生徒が、11月に生徒がコスモスロードの整備を行った。通学路清掃も含めこれらの活動により生徒の地域への愛着も深まったのと同時に地域への貢献が行えた。	B
		○TEASを更新し、節電・節水の意識も浸透してきている。	○循環型社会にも適応できる環境に配慮した学校作りの推進	○環境委員などの研修を通じて生徒の中に環境リーダーを育成する。	○環境教育の講演会・LHRの実施 ○グリーンカーテンの設置に取り組む。 ○教室の美化に努め、落ち着いて学習できる環境を整える。	B	環境学習LHRを通じて、節電、ゴミの分別、ゴミ減量、環境への影響を学習することができた。グリーンカーテンの設置の際は多くの生徒が積極的に関わった。掃除時間減の対策を検討する必要がある。	B
				○電力使用量、上水道使用量、ゴミ廃棄量は平成23年度の使用量を維持す	○学校が一体となって節電・節水・ゴミの分別に取り組み、リサイクルの意識を高める。	B	生徒の意識は高まってきており、学校祭におけるゴミは前年度より大幅に減った。電力については酷暑厳寒により微増であったが、昨年度と同水準が維持出来た。	B
				○韓国への派遣は10名を目指す。	○韓国留学経験者の話を聞く機会を設け、韓国への興味関心を高める。 ○ハングル選択者に機会を見つけ留学を勧める。	C	ハングル選択者に留学を勧めた結果、韓国への派遣は6名だった。また、アメリカから3名の留学生を受け入れ、交流を深めた。3月には、本校から4名の生徒がアメリカに留学する予定である。	B

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要